鬼岩と鉱山の里「ふる里おにむ

（大田市）

鬼村下（おにむらしも）

地域の概要

市中心部から南西方向に10kmばかりの山間地域にある農村集落。かつては、石膏の産地鬼村鉱山として活況を呈していたが、現在は、観光名所もなく、国道などの幹線道路からも外れていることから、外部からの人の入り込みは殆どない状況である。

取り組み概要

① 経過

婦人会や若手、有志など世代ごとに意見聴取をした上で、実行委員会を組織し、集落内にある「鬼岩」を活用したプランを策定。プラン実施にあたっては、住民全員がそれぞれの特技を生かして参加し、実行した。

② 取り組みの状況

① 鬼岩公園の整備

毎週日曜日を作業日と決めて、鬼岩周辺の草刈から始めて、立木伐採、整地作業、遊歩道、ベンチ、駐車場整備を行った。また、公園や鬼岩等の説明看板、集落や鬼村鉱山の案内板を手書きで作成し、設置した。(928千円)

② おにむらだよりの発行

本事業について、また、集落の歴史などを掲載した広報誌を作成し、集落全戸へ配布した。(3千円)

③ 成果

・本事業の趣旨が集落の人に理解され、交付金を有効に活用しようということで、労力奉仕や資材（資材、材料、苗木など）の無償提供などさまざまな形で殆どの会員がこの事業に参画できた。
・地区外からも注目され、作業や資材提供などの協力が得られた。
・やればできるという地域活性化の機運が、ようやく芽生えてきたと思われる。

らづくり」

集落データ

◎市町村名	大田市	◎集落名	大屋町鬼村下自治会
◎戸数	35戸	◎高齢化率	53%
◎ジャンル	文化、交流、環境・景観	◎策定年度	平成12年度

4 課題

整備した公園に連なる市道沿いへの植樹と外灯の設置。

集落代表者の声

大屋町鬼村下自治会　渡辺　隆司

高齢化率53%、世帯も年々減少する中で、このままではいけないと誰もが感じていました。何かのきっかけを求めていた時にこの事業が始まり、早速プランを策定し、認定されました。

「鬼岩」と「鉱山」という地域固有の財産に着目して活動しましたが、一人ひとりが地域の良さを改めて見直し、自分のできることを発見できたと思います。

「花壇の管理は任せて。」「彼岸花の群生地を取り戻そう。」と、次々アイデアが出てくるようになりました。

「おにむらだより」の発行も続けながら、より一層集落内外のつながりを深めていきたいと考えています。

今後のビジョン

歴史や伝説などの聞き取り、資料収集を行い、「おにむらだより」を継続的に発行するとともに、集落出身者への配布など配布先の拡大を図る。

問い合わせ先

大田市総務部企画振興課
☎0854－82－1600（代）

きずな促進プラン

（大田市）

福原上（ふくはらかみ）

地域の概要

市中心部から南へ15kmのところ、石州水上瓦の産地、水上町の中心部にある。かつては瓦工場への人の出入りや、小・中学校、郵便局、農協などの集中により賑やかであったが、瓦工場の協同組合化、小学校や農協などの統合移転により往時の活況は見られない。

取り組み概要

① 経過

全戸で話し合いが行われたもののまとまらず、自治会推進委員、親子会、ゲートボール会の3班に分かれ、班毎に話し合い、プラン案を協議した。また、プランの実施にあたっても、それぞれの班が担当事業を持ち実行した。

② 取り組みの状況

① 分別収集ステーションの建設・外灯改修工事

市道原田線沿いの自治会中心部に建設した。また、集落内12箇所の外灯の器具取替えを行った。(660千円)

② 自治会備品の購入・自治会活動の充実

テント、クーラーなど、自治会行事等で使用する備品を購入し、新たな行事として海水浴、バーベキュー大会などを行うとともに、集会所に階段・てすりなどの設置やファンヒーター、冷蔵庫などの備品を購入することで、集会所へ集まる機会を増やし、町の行事である運動会や文化祭へも積極的に参加した。(266千円)

③ 親子活動実施

デジタルカメラを購入し、各種事業の結果を自治会報に載せ回覧することで、情報の共有化を図った。また、行事用のうちわを作成し、運動会でお披露目した。(96千円)

④ ゲートーボール場照明工事とゲートボール大会の開催

ゲートボール場に2基の照明を新設し、ふれあいゲートボール大会を3回開催した。(105千円)

③ 成果

・分別収集ステーションを自治会中心部に建設したことにより、資源保護に活用している。

集落データ

◎市町村名	大田市	◎集落名	水上町福原上自治会
◎戸数	32戸	◎高齢化率	36%
◎ジャンル	文化、環境・景観	◎策定年度	平成12年度

・外灯の器具取替えにより自治会が明るくなった。
・集会所に階段・手すりを設置したことや、ファンヒーター・冷蔵庫を購入したことで多面的な利用が可能となり、各種会合により利用が非常に多くなった。
・自治会、親子会。ゲートボール会を中心に、たくさんの事業を活発に取り組むことが出来た。
・実施事業に親子会が参加することで、世代間交流が出来た。
・事業実施の結果を自治会報として回覧したことで、取り組み事業に対する関心が高まり、集落の活性化に大変効果があった。
・高齢化により沈滞気味であった文化活動も、この事業で盛り上がり、町全体の文化活動面にも貢献できた。

4 課題

今後さらに高齢化が進展し、今回始められた取り組みを今後も継続していくことが困難になることも予想されるため、役員の交代など出来るだけスムーズに進めることが必要である。

今後のビジョン

自治会内の親睦と更なる結束を図るため、ふれあいきずな旅行を計画している。

集落代表者の声

水上町福原上自治会　田平　博行

福原上自治会の集落活性化プランは、「きずな促進プラン」と名付けました。

たかが百万、されど百万、そのお金を当自治会は、世代間交流という「きずな」づくりに充てました。

農業中心から産業中心へと生活が変化し、更には高齢化も進んでいるのが現状ですが、田舎ならではの自治会文化「きずな」は、これからも受け継いで欲しいものです。

事業の取り組みの成果である各行事の活性化は、自治会員の団結力の現れであり、福原上自治会の一会員として誇りに思います。

問い合わせ先　大田市総務部企画振興課
☎0854－82－1600（代）

西田いきいき田舎づくり

（温泉津町）

机原（つくえばら）・郷（ごう）・老原（おいばら）・町（まち）・矢滝（やたき）

地域の概要

西田地区は、大森銀山の温泉津港へ向けての街道筋であり、その当時は宿場町として栄え、その名残りが今でも存在している。中でも、秋の風物詩「ヨズクハデ」は島根60景に選定されており、毎年写真マニアが絶えない。こうした歴史的文化を継承することが地区の活性化をもたらすものと、現在西田会を中心に取り組んでいる。

取り組み概要

1 経過

西田地区は高齢化に伴い集落単独では事業に取り組めないところもあり、各集落の代表者で話し合った結果、西田５集落が一つになり、活性化推進協議会を立ち上げ、活性化の起爆剤になればと取り組んだ。意見集約の手段はアンケート調査で全戸に意見を聞き、多い意見を協議会で検討し決定した。

2 取り組みの状況

① いのしし捕獲器設置事業

近年過疎化高齢化が急速に進み、労働力不足で田畑の荒廃が多くなった。さらに、鳥獣害の被害が年々多くなり特に猪の被害は水稲をはじめ、あらゆる作物に被害が出ている。自主防衛でトタン、網等で対策しているが一向に効果がない。そこで５集落に12ケ所の檻を設置し、餌付けの管理者をきめ捕獲した猪の処理については、温泉津町有害鳥獣駆除班と契約し鳥獣害対策を実施した。

② 木炭、竹炭窯の設置

昭和30年代まで盛んに生産されていた炭焼きについて、経験者５名を集落からつのり、窯の建設から木材の伐採、炭の生産まで行った。初釜の火入れには、地区全体に案内し火入れ式をおこなった。竹炭についても、専門の窯を購入し試験炊きをおこなった。

③ ゲートボール、ペタンク場の備品の整備

西田地区の老人会が主体で町の補助を受け整備したゲートボール場が机原地区にあり、現在月１日から２日くらい利用している。この施設には休憩場、道具の保管場所がなく困っていた。そこでこの事業導入に伴いベンチ５台、簡易物置を設置した。

④ 草刈り機の購入

地区全体が山野に囲まれた典型的な過疎であり、春から夏にかけての雑草がすごい勢いで住まいや道路など生活の場を脅かしている。各集落や西田会が県道・町道の草刈奉仕を実施しているが、各集落に集落の備品として購入した草刈り機を２台づつ配布し共同利用を行い、その管理は集落ごとに管理者を決め管理を行う。また、原則として公共の場で共同利用とする。

⑤ イベント道具の購入

昔から続いた歴史のある西田の盆踊りを西田会（青年、壮年の会）が中心となり次世代へ引き継ぐ取組みを行っている。この取組みをさらに充実するため音響機器一式、提灯、テントカバー、投光器を購入した。

3 成果

① いのしし捕獲器設置事業

平成13年３月末までに12ケ所設置し、４月１日より捕獲を開始した。８月３日までに、12頭捕獲した。これから秋に向け管理担当者と捕獲班との調整会議を開催した。

集落データ

- 市町村名　温泉津町
- 集落名　西田５集落（机原、郷、老原、町、矢滝）
- 戸　数　18、18、9、27、6戸
- 高齢化率　45、60、42、36、63%
- ジャンル　文化、環境・景観
- 策定年度　平成12年度

② **木炭、竹炭窯の設置**

平成13年６月10日から釜の建設にとりかかり、平成13年７月８日に安田町長を招き初釜の火入れ式を行った。最初は釜を固めるのが目的であるので、良品はできなかった。７月17日に二回目の炭出しを行い約150キロの生産があり、「ザ・木炭　ヨズクの里」と命名し、現在販売中である。竹炭釜も試験炊きを行い、今後希望者に貸し出すこととした。

③ **ゲートボール、ペタンク場の備品の整備**

ゲートボール場の備品については予定どおり設置し、老人会、笑おう会(B型機能訓練)が活用し好評を得ている。

④ **草刈り機の購入**

各集落に２台づつ配布し、区長管理の下共同草刈り作業等で活用している。

⑤ **イベント道具の購入**

音響機器、イベント用提灯については、盆踊り大会で活用し、盛大に行われ地区住民に好評を得ている。

4 課題

① **いのしし捕獲器設置事業**

設置から一年を経過して捕獲頭数が25頭であり、いまだ成果の無い檻があるが今後の対策として場所の移動等、捕獲班と協議の上対応して行きたい。

② **木炭、竹炭窯の設置**

炭焼きのメンバーが高齢化（平均年齢70歳）しているので後継者の育成に力をいれたい。

③ **ゲートボール、ペタンク場の備品の整備**

備品の充実に伴いゲートボール、ペタンクの練習を増やし健康作りを推進する。

④ **草刈り機の購入**

集落の共同備品として各集落が維持管理（保管、手入れ）を徹底する。

⑤ **イベント道具の購入**

盆踊りを末永く存続させるため後継者の育成を推進する。また、盆踊り大会を通して帰省客との交流を推進する。

集落代表者の声

西田地区　中井　秀三

西田地区では、５集落が一つになり活性化推進協議会を立ち上げ、地区民よりアンケートで意見集約を行い、協議会で検討した結果、農林業を中心に生活環境、福祉・文化の伝承等広い分野での意見を取り入れ、多くの人に事業効果を感じて戴くよう配慮した。

事業実施後一年を経過して、メインの猪駆除対策については、25頭の捕獲実績で一応の成果は出たものの、まだ一度も捕獲していない箇所もあり、場所の移動、管理者の交代等を部会で協議していきたい。炭窯については過去の経験者５名でグループを作り、昨年夏２回、秋２回そして今年の冬３回の釜だしを行った。製品については、まずまずの出来で、小中学校のイベントのバーベキュー用として、床下の湿気取りとして、上品については箱詰めし、愛称を「ザ・木炭よずくの里」と命名販売した。また、湯里小学校低学年の体験学習にと、学校より依頼があり２回に渡って実施した。その他福祉・文化に関するメニューも順調にこなし、葬祭時には大変喜ばれている。

この事業をきっかけに、過疎の村にも、人と人の交流が出来、ボランティアにも積極的に参加して戴き、生まれ育った我がふるさとを少しでも住みやすくする願いは誰も一緒であり、西田地区活性化の一助になるよう願っている。

問い合わせ先

温泉津町役場　企画振興課
☎0855－65－3111（代）

草木原 みのり豊かな農業交
自分たちの農地を守り、がんばって次の世代に引

（仁摩町）

草木原（くさき はら）

地域の概要

大田市境に近い草木原集落は、山間部の潮川筋の谷間に位置する民家が点在する集落である。若者を中心とした人口の減少、少子・高齢化が進むなか、集落全体で農業を中心とした集落づくりを進めている。

取り組み概要

1 経過

平成11年10月に集落での制度等の説明会を開催して以来、住民同士で意見交換をしながらプラン作成を進めた。集落内に集会施設や活動拠点がないことから、これらを整備してはどうか等様々な意見が出たが、集落の生活の中心である農業に役立つ取り組みを実施することにまとまり、みんなで協力しながら取り組んだ。

2 取り組みの状況

① イノシシの防護柵の設置

平成12年６月中旬に資材等を発注し、下旬から７月の上旬にかけて設置作業を実施した。作業日数は10日間で、集落住民延べ115名が参加し、資材の搬入から設置に至る作業の大部分を住民が役割分担によって行った。

また、平成12年７月12日には電気柵への通電を開始するとともに、感電事故防止等のための札の設置を行った。

・防護柵の設置延長　5,794m（電気柵　4,266m、トタン柵　1,528m）
・受益面積　8.2ha

② ソバ打ち講習会、ソバ試食会の開催

平成12年秋のソバの収穫以降、延べ60人が参加し４回に渡って講師を招いてソバ打ち講習会を開催した。また、平成13年１月にはお年寄りを中心に集落住民20人を招いてソバの試食会を開催した。また、平成13年度には２回に渡り15人が町外で開催されているソバ打ち講習会に参加し、技術の向上に取り組むとともに、自治会でもソバの収穫にあわせて20人が参加して講習会を開催し、集落住民を招いてソバの試食会を開催した。

流計画
き継ごう

集落データ

- 市町村名　仁摩町
- 集落名　草木原
- 戸　数　28戸
- 高齢化率　52.25%
- ジャンル　産業、環境・景観
- 策定年度　平成12年度

③　地区の文化祭へのバザー出店

平成13年11月18日に開催された地区の文化祭に、集落で採れた農産物を主に利用した手打ちソバなどのバザーを出店した。好天に恵まれ大勢の人が文化祭に来場し、あわせてバザーへ来店し、集落の新たな特産物をPRすることができた。

3 成果

防護柵の設置により農作物の被害がなくなるとともに、その設置作業やソバ打ち講習会などプランの実施に多くの住民が参加し、各作業の役割分担などを決めて取り組んだことによって、住民同士の相互協力と連携が深まった。また、文化祭へのバザー出店では大勢の人が来店し、これらの人たちに集落の取り組み内容や特産物のPRが十分にできたことから、新たな特産物づくりや農地の活用など、集落全体で農業への意欲が生まれている。

4 課題

①　集落全体で農業に取り組んでいるが、中心となっている者が段々と高齢になってきており、後継者の確保が課題となっている。

②　住民の高齢化、減少により農業に従事する者が少なくなってきており、農地の荒廃が心配される。

今後のビジョン

これまでにも農業を生かした集落づくりを進めてきており、住民同士の協力により農地を守ってきたが、今回の取り組みにより農業にとって大きな問題であったイノシシ等による被害が減少し、農作物が安定して収穫できるようになった。また、それに伴って新たな特産品づくりなど、集落をあげて農業に対する意欲が向上しつつある。今後も住民同士の協力により農作物の収穫の確保、農地を荒れさせないように務めるとともに、自分たちの取り組みをPRする。

集落代表者の声

「農地を守り次の世代に引き継ごう」とこれまで集落をあげて農業に取り組んできており、この事業で集落の大きな悩みであったイノシシ被害等を減少することができた。これからは、農業に従事する者が段々と高齢化し、後継者も少ないことから農業や農地を守る取り組みが難しくなってくる等、いろいろな問題点を抱えているが、集落をあげた協力と世代をこえた交流で自分たちのできることから取り組んでいきたい。

問い合わせ先

仁摩町役場　総務課
☎0854－88－2111（代）

みんなでふれあう里づくり

みんなで「ふれあい」技術と資源。習慣と環境を見直し「ふるさ

（川本町）

谷戸（たんど）

地域の概要

当集落は江の川の支流、三谷川の急峻な峡谷に沿って広がる集落で川本の市街部と三谷の農村部との中間に位置し、近年の道路改良に伴い交通アクセスは良くなったが、若年層の人口流失及び高齢化により集落の活動は鈍りつつある。

取り組み概要

1 経過

平成12年１月15日対象事業導入について初回協議を開催、当初の有志による取り組みを集落全体の事業として発足する。炭焼きというハード事業に対してソフト事業の提案もあり地域の活性化事業の趣旨について討議を重ね事業の導入を決定した。炭窯設置予定地を近隣の住民の事情により変更したりといった苦労もあったが、８月から11月にかけて作業場、木炭窯、竹炭窯を製造し、12月に初窯だしをした。

2 取り組みの状況

① 発起より事業の始動まで

対象事業の導入を発起して、集落内の意見を集約するため協議を重ね、具体的な取り組みまでに約７ケ月を要し、事業の認可を得て作業場・炭窯の設置等の施設整備に４ケ月を経て11月末に初窯の火入れをすることが出来た。ただし、木炭窯については本焚きに入るまでの乾燥焚きに２週間を要した。

② 実働に入ってからの活動状況

過去の経験者の指導を受けたと言っても、集落から炭焼きの煙が絶えてから約40年にもなろうかという現在、お互いに手探りの状態で、こと竹炭窯については初めての体験で悪戦苦闘の連続であったが、それでも年内に施設を完成させ、木炭窯は初回の窯込めと竹炭窯は３回の炭出しを見ることが出来た。

③ ２年目の活動状況

平成13年に入り１～２月は冬季でもあり休止状態であったが３月より活動を始め、木炭の売却先も確保でき竹炭も逐次焼けるようになった。しかし火は魔物と言われるように毎回同じ製品が焼けるとは限らず技術の安定に苦労している。

と」を活性させよう。

集落データ

◎市町村名　川本町	◎集 落 名　谷戸
◎戸　　数　32戸	◎高齢化率　50%
◎ジャンル　産業	◎策定年度　平成12年度

各種のイベントにも出品し、竹炭、竹酢のPRに努めた。また9月と14年1月には炭焼き体験実習生を受入れたり、住宅建築時の資材（床下の除湿の為に敷き詰める）としての利用もあった。現在は大口の受注もあり概ね良好に推移している。

③ 成果

まだ集落での変化というものは、はっきりと見えてはいないが、活性化への意識は段々と出来つつある。何分にも高齢化率が高く、動ける者はそれぞれに仕事を持っているのと、材料の伐りだしという経験がないため、実際に活動出来るのはある程度限られて来るが、今後は活動の分野を広げることにより全員参加の事業に育てたい。

④ 課題

① 全員参加の実働体制を立ち上げること
② 焼成技術の向上を図り、良質炭の生産に努力すること
③ 商品化への努力と販路の確保と拡大を図ること

今後のビジョン

① 県内でも各所で木炭・竹炭の取り組みが盛んであるがその中で、挫けることなく、技術の向上と商品化への努力によってブランド品としての位置を確立したい。
② この事業に取り組んだ第一の目的は、製炭技術の伝承と資源の活用であるが今後は製炭に限ることなく豊富な森林資源の幅広い活用を考えたい。
③ 製炭の体験学習に併せて木工、竹細工等、あらゆる農村の体験学習も行っていきたい。そのためのPRも今後の課題である。

集落代表者の声

当集落は若年層の流失と高齢化の中で生活形態は大きく変化してきている中、地味なりに潤いと活気を求めて本事業について話し合いを重ねた結果、「ものづくり」を通じ協調と協和により木炭と竹炭の製造に取り組むことを決め、現在までに製品の販売にこぎつけたが、今後は益々販路の拡大と運営の強化を図っていきたい。

問い合わせ先　川本町　企画財政課
☎0855－72－0631（代）

田舎もいいぞ！
次世代の子供たちに残すいきいき計画

（邑智町）

石原（いしはら）

地域の概要

・当集落は県道邑智赤来線に沿って細長く連なる集落であり、大田市や三次市までは車で40分の所に位置しています。
・近年の人口動態はH13.4月現在（54人/138人）高齢化率39%である。
・集落戸数が多い為、二分（石原上・石原下）して奇数月と偶数月に定例常会を開催しています。

取り組み概要

① 経過

全体会にて事業説明し上・下集落からそれぞれに高齢・壮年・若年・婦人の代表者を選任していただき、事業の実行委員会を設立し計画から実施に至るまでを担当し、集落全員の合意と協力により事業実施した。

中でも、この事業により婦人方のパワーによる取組や結束力は大きな起爆剤となった。

② 取り組みの状況

① 集落営農組合設立の準備委員会設立

この取組は以前からある防除組合を基にして、今なら出来る集落営農組合の組織立ち上げの起爆剤として準備委員会の設立と集落農業の話し合いの場づくりを行い、平成13年７月23日に石原下集落営農組合の設立が実現した。

② 転作田利用による加工作業

婦人グループから出た計画であり、地元でとれた食材を利用したみそ加工の取組と、若年層の発想によるフリーマーケットを開催し、集落の新しい風として継続事業への取組ができた。

③ 伝統工芸の体験活動

地域に伝わる「木彫り面」の技術を子供たちにも伝えて行こうと地域のお年寄りを先生に集落内の子供たちが集まって教室を行った。

④ 石原文化のほりおこし事業

石原集落の内、上組にあたる20戸が担当し、昔ながらの言い伝えや2001年の集落内の家族写真を集めた「集落伝説」を作成した。

今後は下組分（32戸）の「伝説」を作っていく。

⑤ 集会所整備事業

当地域は戸数が多いため、通常の常会等は２組に分かれて行っている。下組の集会所は昭和47年頃に建設されたため、老朽化が進み、修繕を余儀なくされた。地域の核となる施設であるた

集落データ

◎市町村名	邑智町	◎集 落 名	石原集落
◎戸　　数	52戸	◎高齢化率	38%
◎ジャンル	文化、産業	◎策定年度	平成12年度

め、今回の整備により更に利便性が向上し、今後も地域に根ざした活動拠点として利用していきたい。

③ 成果

集落での取組事業はささいな事業ばかりであったが、話し合いにおいて莫大な計画から私的事業まで多彩なプラン検討がなされたが、結局は金額面やこれなら取り組めるという身近な事業になりました。

なかでも集落営農組合の設立は大きな成果となり、集落内の３人の担い手が水田に関する集落内農家全員の利用権設定を確立した。

そのほかには、女性パワーの活動による集落の活気を取り戻すことができた。また、文化のほりおこし事業では昔からの言い伝えや、記憶に残る書物の作成など次世代への集落伝説の第一歩を踏み出したといえる。

④ 課題

- 今回設立した営農組合の更なる発展と営農の確立
- みそ加工やフリーマーケット等は今後も継続して実施していく。
- 集落伝説の活動は加除式として今後も継続していく。

今後のビジョン

今回の事業で動き出した集落を今後も様々な事業を実施し、盛り上げて地域の輪を大切に、みんなが生き生きと活動していける集落づくりに発展させていきたい。

集落代表者の声

今回の事業で初めて集落についてお互いに掘り下げた話し合いが出来たことは大変評価できる。今後も似たような事業があれば、是非取組を行いたい。

問い合わせ先

邑智町産業課
☎0855－75－1214